

令和8年3月12日

令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	台東区立松が谷保育園
所在地	台東区松が谷 4-15-11

1. 活動のテーマ

<テーマ>

表現（寸劇・絵本）…プリンセスになろう・なりたいものや感じたことを音や色で表現してみよう

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子供たちの興味関心、園の特色など）

- ・劇団「昴」による寸劇「シンデレラ」を見て、自分たちも同じようなドレスを着てみたいという想いから始まった。
- ・子供たちの遊びには、様々な小道具や身に着けるものがある。子供たちなりにきれいな色を選んだり、音楽を聴いたりして様々な音を鳴らして楽しんでいる。好きなものを音や色で表現したらどうなるか。子供たちのつぶやきや制作遊びを通しての表現遊びが豊かになるように「音」や「色」にも着目していく。

2. 活動スケジュール

- ・劇団「昴」のメンバーが来園する日「ちびっこ松が谷」にて、寸劇「シンデレラ」を見た後に衣装作りを行う。また、夏には、色水を使って遊びその様子を見たり、色の変化を感じて言葉で伝え合ったりしながら色に触れる経験を増やしていった。色に触れる経験を通して季節の制作遊びを多く取り入れる。
- ・音楽をかけて楽器を鳴らし、自由に表現できるようにする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

素材や道具

・カラーポリ・ガムテープ・セロファンテープ・はさみ・りぼん・ポスターカラー、透明バケツ、透明ホース、スポンジ、太鼓など

環境の設定

・教材を並べた机と制作をする机を用意し、好きな色や模様を使う素材を自分で選べるようにした。

制作では落ち着いて取り組めるよう遊びをコーナーに分け、制作コーナーと自由に遊べるコーナーの環境を作った。

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

劇団「昴」による寸劇の「シンデレラ」を見て、シンデレラの衣装を作ってみたいという意見から衣装作りに取り掛かる。素材は何がいいのか意見を出し合い、思いにあった素材や色を見つけて作っていた。細かいパーツや飾りつけも自分で考えて装着したり、友達の作品を見て同じ物を作ってみたりしながら衣装作りを行っていた。その他にイメージにあった小道具を広告紙や折り紙等を使って作り、友達と役になりきってごっこ遊びを楽しんでいました。

表現する楽しさを知った後、色水遊びを通して「色」の変化や混合性を行ったり、楽器を使って「音」の表現を楽しんだりしていた。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

作る工程では友達や保育士等に「ツルツルしたスカートがいい」「水色と白がいい」等イメージを言葉にしながら材料を選んでいった。カットする時に長さがあるて上手く直線が切れない子には援助が必要か聞き、必要に応じて支えたり手伝ったりした。できた作品を身に着けて、嬉しそうに保育士等に見せたり友達と見せ合ったりしていた。遊びが発展し、「私は〇〇のプリンセスにするね」「一緒に〇〇行きましょう」と言いながら、役を決めたり上品な話し方をしたりしてやり取りを楽しんでいた。

色水遊びでは色が混ざり合うと透明カップや透明バケツに入れて「〇〇ジュースいかがですか」とジュース屋さんを楽しんでいる。また透明ホースに違った色の色水を交互に入れ、流れる様子や色が混ざり合う変化を観察して楽しんでいた。色水を使うと、ホースの中で水が流れていく様子が分かりやすく、変化に気づいて言葉にしていた。「あっ！かわった」「きれい」と言い、どんな色を流すと更にきれいな色になっていくか、きれいな色にするために何色を使うかなど子供たちなりに考えて色を選んでいる様子が見られた。

また太鼓を使って音楽の表現を楽しみ、様々な音楽に合わせてリズムをとって叩くことを楽しむ姿も見られた。太鼓の他に段ボールや紙パック積み木なども並べて叩き、音の違いも発見し、楽しんでいる。

<活動の様子>



5. 振り返り

(振り返りによって得た保育者の気づき)

実際に見た物を表現する楽しさを味わい、友達と一緒にいることで友達の姿に興味をもちながら遊んでいたもので、良いきっかけ作りとなった。また更に遊びが発展し、小道具を作って配役を決めてごっこ遊びをしていた。色や音遊びでも「こうしたらどうなるか」「今度はこうしてみよう」など試行錯誤を繰り返していた。何度も繰り返し楽しむことで探求心が深まっていくと考えられる。繰り返し試す時間と環境作りなどの大切さを学んだ。

以上

令和8年3月12日

令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	台東区立松が谷保育園（5歳児）
所在地	台東区松が谷 4-15-11

1. 活動のテーマ

<テーマ>

表現（寸劇・絵本）…お話の世界に入ろう

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子供たちの興味関心、園の特色など）

・発表会の劇遊びを進める中で、何を用意したらいいかを子供たちに尋ねたところ、小道具と共に背景画を作成することの提案が出る。劇遊びは「ももたろう」だったので、ももたろうはどんなところに住んでいるのか、周りの景色はどんな様子かを考えたり、話し合ったりした。

2. 活動スケジュール

- ・発表会の劇の題材を決定し、どのような場面や大道具が必要か話し合う。
- ・背景を作ることに決め、山と鬼ヶ島の2種類を作る。
- ・山はちぎり絵、鬼ヶ島については、はじき絵の手法を取り入れ、自分の役と併せて作りたい方の制作をする。
- ・完成した背景を用いて「ももたろう」の劇をする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

模造紙、色画用紙、糊、糊用のヘラ、クレヨン、絵の具、筆、新聞紙、絵本など

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

・経験した技法を用いて制作を進めたことで、子供たちが好きな制作を選び、意欲的に背景作りをしている。ちぎり絵では、色画用紙のちぎる大きさや貼り方を友達や保育士等と一緒に話し合って決め、画用紙をある程度の大きさにちぎる役と、ちぎった紙を糊で土台の模造紙に貼り付ける役に分担している。はじき絵では、何色のクレヨンで下書きをなぞるか話し合い、制作をしている。どちらの背景作りも友達や保育士等と一緒に協力してとても丁寧に進めている。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

・保育室にあった「ももたろう」の絵本を参考にしながら、色や形を決める姿が見られる。

・ちぎり絵では「紙はこのくらいの大きさがいいかな」「もっとこっちに糊を塗って」「何色のちぎった紙が足りないよ」など友達同士でも声をかけ合い、保育者が子供同士の橋渡しをしなくても見守る場面があった。

・はじき絵では「ここは僕が塗ったよ」「でも、色が薄いから僕も塗ろうと思ったよ」などの言い合いになる場面もあったが、他児や保育士等の仲立ちのもと、最後まで仲間と一緒に作ることができた。

・糊の感触が苦手な子がいたが、用意したヘラを使うことで抵抗感なく友達と作る姿が見られた。

<活動の様子>



(振り返りによって得た保育者の気づき)

- ・初めての活動や慣れない活動に苦手意識を強くもつ子が多いクラスではあるが、この制作遊びを通して今までの経験を積んだことにより、制作に対するイメージがすぐに膨らみ、抵抗感なく取り組む姿が見られた。
- ・友達同士で役割を分担する姿には成長を感じた。
- ・友達と協力して一つのもので作り上げる達成感や満足感は大きいようで、劇の練習に対する意欲も増したように感じる。
- ・「こうした方がいいよ」「これにしたらどう？」などお話の世界に入っていくために子供たちの中で試行を繰り返している。良いものを作り上げるために意見を出し合うことも探究心が育っていると感じた。
- ・引き続き、いろいろな制作や表現活動、子供たちの豊かな発想を遊びに取り入れていく。

以上

令和8年3月12日

令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	台東区立松が谷保育園（3歳児）
所在地	台東区松が谷 4-15-11

1. 活動のテーマ

<テーマ>

表現（寸劇・絵本） …アイドルやヒーローになろう！

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子供たちの興味関心、園の特色など）

子供たちにとって「アイドル」や「ヒーロー」は、憧れの存在である。進級当初は、新しい環境に触れることで興味や好奇心が湧き、いろんな遊びを経験してきた。とうきょうすくわくプログラムで劇団「昴」の方々の読み聞かせや寸劇にも興味を持っていた。回を重ねるごとに表現力に魅了されていく。また、年上児の影響で「憧れ」として心の内に秘めていたものが、「自分たちもなりたい！」という気持ちになっていく。その気持ちを実現するために「アイドル」や「ヒーロー」に必要なものを少しずつ自分たちで作っていった。

2. 活動スケジュール

- ・寸劇鑑賞後、ごっこ遊びのイメージが広がりを見せているため、好きな遊びの時間を設けている。その中で遊びに必要な物や道具を聞いて実現できるように、事前に教材を用意しておく。
- ・3歳児でも扱えるような紙類を中心に用意する。子供からのイメージを取り入れて小物や身に着けるものを作っていく。場合によっては、保育者が援助して実現できるような素材も取り入れて作成する。
- ・その後、作ったもので遊べるように場所と時間の確保をする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

折り紙、チラシ、ウレタン製の柔らかい棒状のもの、CD ラジカセ、ポンキーペンシル、表現ができる場など。

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

とうきょうすくわくプログラム内の寸劇で劇団員がいろいろな役になりきって演じている姿を見たことで、ごっこ遊びに必要な道具をつくりたい気持ちが生まれる。保育士等が必要な道具を確認すると、自分たちで道具を用意したり、保育士等に必要な道具を頼んだりしている。作りたい物のイメージはあるがうまくいかない部分もあるため、保育士等と一緒に作る。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

子供たちにどんな物を作りたいか聞くと「アイドルがつけているマイク」「スカートもほしいな」と話している。「アイドルがつけているマイクってどんなの」と保育士等が聞くと、「口からマイクが出ているの」と身振りや手ぶりで教えている。保育士等がハットセットマイクだと分かり、必要な道具を準備する。マイクになる部分にはチラシを用意してつくり始める。最初は、チラシを丸めるのが難しくて「できないよ」「せんせいがやって」と話すこともある。保育士等がコツを伝えたり、一緒にしたりすることでマイクの部分が完成する。棒と棒をうまく繋ぎ合わせてハットセットマイクにして装着するが、子供たちは浮かない顔をしている。マイクの先端が口元に向いていないことに気付き、自分たちで曲げ、口元に向けている。ハットセットマイクが完成すると「せんせい、音楽を流して」と話し、お気に入りの曲に合わせて踊っている。曲が止まるとアイドルポーズを決めたり、セリフを言ったりしている。

スカートづくりでは、保育士等がスカートを用意すると自分たちでキラキラテープを貼っている。表面にテープを貼ると「一周させたい」と話している。裏面にも貼りたいことが分かったので、何本もテープを用意することで反対面にテープを貼り完成を目指している。「キラキラしたスカート」を嬉しそうにはいて、踊ったり、ごっこ遊びをしたりする。

また、柔らかい素材を見つけるとそれを剣に見立ててヒーローになっている。持ち手には好きな色の紙を貼ったり模様のようなものを描いたりしている。自分が作っていると友達の様子が気になるようで「何色にする?」「〇〇（自身のこと）はこれ付けたよ」などの会話が聞かれ、友達が作っている様子が気になるようだ。

<活動の様子>



5. 振り返り

（振り返りによって得た保育者の気づき）

- ・ ごっこ遊びに必要な道具を用意したり、つくったりすることより遊びのイメージが広がりを見せている。その中で友達とイメージを共有することで、遊びが発展している。
- ・ 園児それぞれが「作ること」で満足していたのが、友達の作品が気になって真似したり、喜びを共有したりしている。「作りたい」、「やりたい」という想いが実現でき仲間も増えて、探究活動につながっている。

以上